

1	事業名	試験研究調査費	予算額	23,600	千円
2	事業細目	(試験研究調査項目) 主要漁場環境動向調査(琵琶湖定期観測)	予算額	429	千円
3	期間	大正11年度～ 年度	予算区分	県単	
4	担当者	氏家、前河、他			

5 目的 水産生物の生産の場である琵琶湖の環境の変化を定期的に観測し、往年の結果と比較検討して、環境動向を把握するとともに、漁場保全対策資料の一助とする。

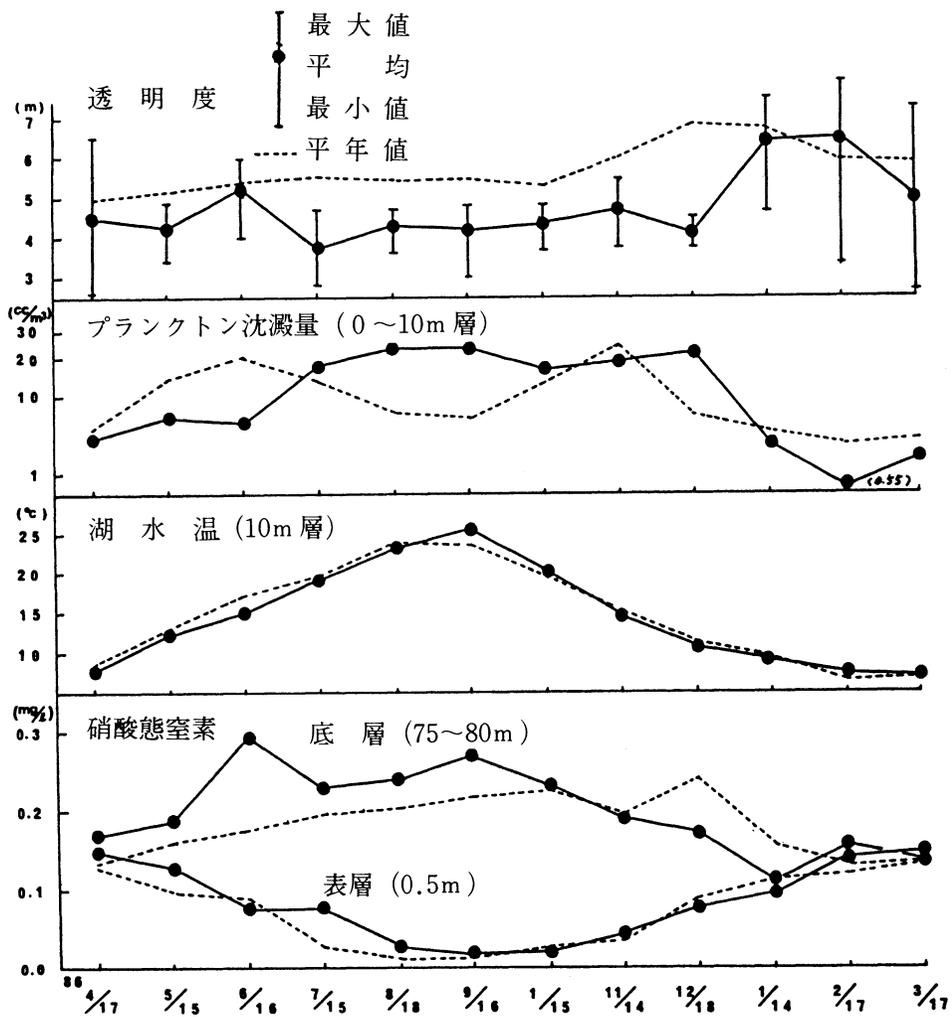
## 6 方法

琵琶湖主盆湖の東岸の彦根港口から西岸の安曇川町舟木崎に至る約15.8Kmの線上に観測定点(5定点)を設定し、各月の中旬に1回、水象、水質、プランクトン等について調査した。

## 7 結果の概要

- (1) 本年度の平均透明度は2月を除く、すべての月で平年を0.24～1.45m下回った。
- (2) プランクトンは4月から6月までは平年を1.25～13.54 c c / m<sup>3</sup>下回ったが、6月から7月に増加傾向が見られた。7月から12月までは、ほぼ同等量の発生であったが、その後は激減した。
- (3) 湖水温(10m層)は、9月、10月、翌年2月で平年を若干上回った他は平年を下回っており、全体的には低水温で推移したと思われる。
- (4) 硝酸態窒素は表層部では、5月、7月で平年を0.05～0.02m g / ℓ上回った他は、ほぼ平年並であった。  
底層部では、4月から10月までは平年を大きく上回り、11月以降翌年1月にかけて激減し2月には再び増加の傾化を示した。

## 8 主要成果の具体的数値 (図・表 等)



水象、プランクトン、栄養塩等の変動

## 9 今後の問題点

プランクトン調査については、従来月1回の定量的なものに加え定性的な調査が必要と思われる。

## 10 次年度の具体的計画